

令和2年10月15日

すいりくばんけい

普及センターだより

# 水陸萬頃

第3号

奥州農業改良普及センター

TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303

いわてアグリベンチャーネット <https://i-agri.net/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

## 危機を乗り越えてきた畜産経営と今後の展開

奥州農業改良普及センター 所長 加藤 満康

秋の日に稲穂が波うち草木の実も静かに揺れています。皆様には、今年も荒ぶる自然にも負けずに出来秋を迎えており、自然がもたらす恵みを、無事分かち合えるようお祈りしています。

さて、コロナ禍の只中、特に畜産経営が打撃を受けてきました。畜産経営の危機をさかのぼれば、石油ショック（S48、S53）、牛肉輸入自由化（H3）、BSE（H13）、大震災と放射能（H23）、そして今般のコロナと間隔をおいて発生し、その度に飼料の高騰、生乳減産、牛価格の下落、粗飼料の給与自粛など厳しい事態に見舞われました。その時々が思い浮かびますが、先が見えぬ不安をかかえ、時には声を上げ、牧場では黙々と為すべき努力を続けて危機を乗り越えてきたものと存じています。

また、この30年間にわたる経営の変化を見ると、飼養規模は、酪農が15頭から50頭、肉用牛が6頭から22頭に拡大し、生産性は、乳牛の乳量が6,200kgから8,600kg、肥育牛の枝肉重量が420kgから500kgに向上しました。このように、毎日の忙しさや環境対策に苦勞しながらも、収益性を高めるために生産構造や技術を変革したことが、危機を乗り越える力の源になっており、このことは農業全般に通じると考えます。

社会は、新型コロナと気候変動、さらに高齢化や人口減少など時代の転換点に立っています。農業において、前述の歴史も教訓に今後の経営展開を考えると、改めて生産基盤や技術と支援システムなど内外の資源を生かした経営を組み立てるとともに、新たな技術や知見を取り入れて変革し続けること、そして時代を見据えた持続可能な経営へ舵を取っていくことが基本になると思います。

また何よりも、災禍のなかで先を見通せず目標を見失うような時があれば、一息ついて目標を描き直し、持ち続けていくことを切に願います。そして、為すべき努力を続けていくうちに、時代の変化と経営の変革とが相まって、より良い道が開けることを願うばかりです。

結びに、コロナ禍の米への影響も広がるなかであり、皆様と関係者が手を共に携えて、今般の事態を乗り越え、胆江地方の農業が未来へと発展していくことを祈念してやみません。



## 令和2年度農業農村指導士責務解除者の紹介

### おつかれさまでした！！ ありがとうございます。

令和2年7月22日、岩手県農業農村指導士認定期間満了者19名への感謝状贈呈式が盛岡市で開催されました。当日は出席した認定期間満了の指導士に対し、佐藤農林水産部長より知事からの感謝の言葉とともに、感謝状と記念品が贈呈され、その後昼食会・懇談が行われました。

奥州管内では、3名の方が期間満了となりました。なお、同日に小澤奥州市長への表敬訪問も行い、市長からねぎらいの言葉をいただきました。

【令和元年度末岩手県農業農村指導士認定期間満了者（奥州管内）】

○千田傳（ちだつたえ）さん（奥州市胆沢、主な経営内容：水稲、作業受託）  
農業農村指導士として平成19年度認定～令和元年まで13年間御活躍

○千田幸男（ちださちお）さん（奥州市胆沢、主な経営内容：水稲、  
機械作業受託、野菜）  
農業農村指導士として平成21年度認定～令和元年まで11年間御活躍

○高野寛子（たかのひろこ）さん（奥州市江刺、主な経営内容：果樹）  
青年農業士として平成24年度認定～令和元年度まで8年間御活躍



これまで地域農業の発展と農村地域活性化に御尽力下さり、改めて御礼と感謝を申し上げます。これからも御助言等で応援よろしく願いいたします。

## 秋の農作業安全月間 令和2年9月15日～11月15日

～令和2年度農作業安全運動スローガン～

「慣れるほど 忘れてしまうその危険 心につけて若葉マーク」



秋の農繁期は、農業機械による作業が増えるとともに、日没が早まることから農作業事故の危険性が高くなる時期です。過去5年間では、秋月間は機械作業による事故が発生しやすく、また、夕方（15時～）の時間帯が最も事故が発生する傾向にあります。慣れた作業でも十分な注意を払い、次のことを心がけて農作業事故を防ぎましょう。

- コンバインがつまった時は、必ずエンジンを停止してから取り除きましょう。
- 家族には作業場所と帰宅時間を知らせましょう。可能なら携帯電話を持ち歩きましょう。
- トラクタの道路走行や圃場へ出入りする時は左右ブレーキを連結し、片ブレーキ誤操作による事故を防ぎましょう
- トラクタには必ず安全フレームを装着し、運転者はシートベルトを締めましょう。



新型コロナウイルス感染症に係る農林水産相談窓口を奥州地域では、奥州農業改良普及センター（0197-35-6741）県南広域振興局農政部（0197-22-2841）に設置しています





## 「金色の風」初検査が行われました！

令和2年9月23日、JA岩手ふるさとでは「金色の風」の初検査が行われました。金ケ崎の鏈水倉庫に「金色の風」と「ひとめぼれ」が搬入され、検査員が等級サンプル品を用いて目揃いを実施した後、格付け作業が進められました。

「金色の風」は今年で4年目となり、栽培にあたっては、生産者が組織する「金色の風栽培研究会」と関係機関が連携を図りながら、生育診断圃の設置や現地研修会等を通して良質な「金色の風」生産のため栽培技術の研鑽に努め、豊かな稔りを迎えました。

この後も「金色の風」の検査が随時進められていきます。岩手県のトップブランド米として美味しい「金色の風」が店頭に並ぶ日を心待ちにしています。



## 奥州ロマンの紹介！

2016年に品種登録された「奥州ロマン（品種登録名「高野5号」）」は、地元奥州市江刺の高野卓郎氏が育成した品種で、強い甘味とシャキシャキとした歯触りが特徴のりんごです。日持ち性に優れ、収穫後常温に10日程度放置しても品質を維持することが可能です。収穫時期は10月中旬で、「ふじ」よりも早く市場に出ます。また、貯蔵性の良さを生かし、翌年3月に「恋桜」という商標でJAが販売を開始しています。

「奥州ロマン」は小玉傾向にあるため、当普及センターでは摘果時期を変えて、果実の肥大促進を図る試験を行っています。他にも、長期貯蔵性の把握のために収穫して最大8か月後の果実品質調査を行うなど、「奥州ロマン」の特性把握と品質向上に向けた栽培技術の確立を目指しています。多くの果樹が収穫期を迎え、店頭では様々な果物を見かける時期になりました。「奥州ロマン」を見かけた際は、ぜひ購入してみてください。

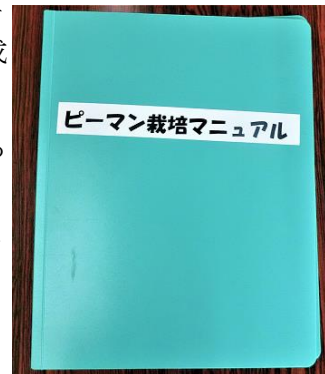


## ～胆江地方ピーマン栽培マニュアル第2版を鋭意作成中です～

胆江地方農林業振興協議会の農産園芸部会では、今年度事業で「胆江地方ピーマン栽培マニュアル」の改訂作業を行っています。本マニュアルの初版は、平成28年に管内の全ピーマン生産者に配布され、ご活用頂いておりましたが、ここ数年のうちに管内では新たな病害虫の発生が見られている事や、その防除対策について新たに得られた知見などがあることから、今回マニュアルの改訂に踏み切ったものです。改訂版となる第2版は、今年度内の完成と配布を予定しており、作成に当たってはJA江刺およびJA岩手ふるさと両農協のピーマン担当者と共に内容を吟味しながら作業を進めているところです。

少しでもみなさんのピーマン栽培のお役に立てるような栽培マニュアルとなるよう鋭意作業中ですので、発行まで今しばらくお待ち下さい。

【第2版は令和3年3月 発行予定です】



## 「～最新“楽楽”技術の紹介①～「BLE タグを利用した放牧管理」

今回から、このコーナーでは「最新“楽楽”技術の紹介」と題して農家の方々の労力や労働時間を軽減する最新の省力化技術について、シリーズでご紹介します。記念すべき第1回目は、畜産の最新技術である BLE (Bluetooth Low Energy) タグを紹介します。

当技術は、生年月日等の個体情報を登録した BLE タグを放牧牛に装着すると、携帯端末をかざすだけで“楽楽”に個体確認や、個体情報をチェックできるという最新の技術です。

また、携帯端末で設定した半径内(最大 50m)に BLE タグを装着した牛が何頭いるかも瞬時にわかります。実際に利用している牧野の看視人からは、「放牧牛の耳標番号を1頭1頭確認する必要がなく便利だ」との声を頂いています。

詳細については、当普及センターまでお問い合わせください。



## 「令和2年度胆江地方農業経営アップ発展セミナー」受講者を募集します！

胆江地方農林業振興協議会では、農業経営の経営管理能力の向上を目的に、「令和2年度胆江地方農業経営アップ発展セミナー(経営計画作成講座)」を開催します。

- ・対象: 青年等就農計画策定5年目の方、認定農業者経営改善計画の初回見直しの方など
- ・開催時期: 令和2年11月4日(水)、10日(火)、18日(水)、25日(水)、12月2日(水)、8日(火)(全6回)
- ・内容: 既存の経営計画の振り返り、今後の計画作りに向けた講演や個別作業を行います。
- ・会場: 奥州地区合同庁舎江刺分庁舎(奥州市江刺大通り7-13)
- ・参加募集経営体: 10経営体程度(参加費: 無料)
- ・申込〆切: 令和2年10月23日(金)

詳細は、当普及センターまでお問い合わせください。(担当: 安部(宏) 内線 231)



## 10～12月のワンポイントアドバイス

### ●野菜

- ・翌年の病害虫発生源にならないよう、栽培終了後の作物残さは持ち出し処分し、資材消毒を実施しましょう。
- ・安定生産に向けた土づくりを実践しましょう。

生物性の改善: 堆肥施用等

化学性の改善: 土壌診断による適正な施肥管理、pHの矯正等

物理性の改善: 深耕、排水対策、高畝等

相互に関係

### ●果樹

- ・りんごは収穫や着色管理など様々な作業が入る時期となります。計画的な作業に努めましょう。
- ・‘ふじ’は蜜入りを多くするために収穫時期を遅らせると、つる割れ果の発生を助長し、低温による樹上凍結の危険性を高めます。収穫遅れが無いようにしましょう。
- ・野ネズミの繁殖期は春と秋が主となるため、根雪前に対策をとることが必要です。幹の周囲を清耕にして野ネズミの営巣を防ぎ、殺そ剤による駆除と忌避剤を併用しながら防除しましょう。